

大 殿

成年向付





おおとの

下男（げなん）…

武家奉公人の一身分。小物、小人とも。雑用をこなす、平民。

大殿…当主の父。

大殿⇄若殿。

寛文…江戸幕府が創設され約六十年、
四代将軍家綱の時代。寛文十年には大
髭禁止令が出た。







—四年後
寛文元年



ああ、すっかり
腹が空いて
しまったよ



ご気分は
いかかですか
父上…



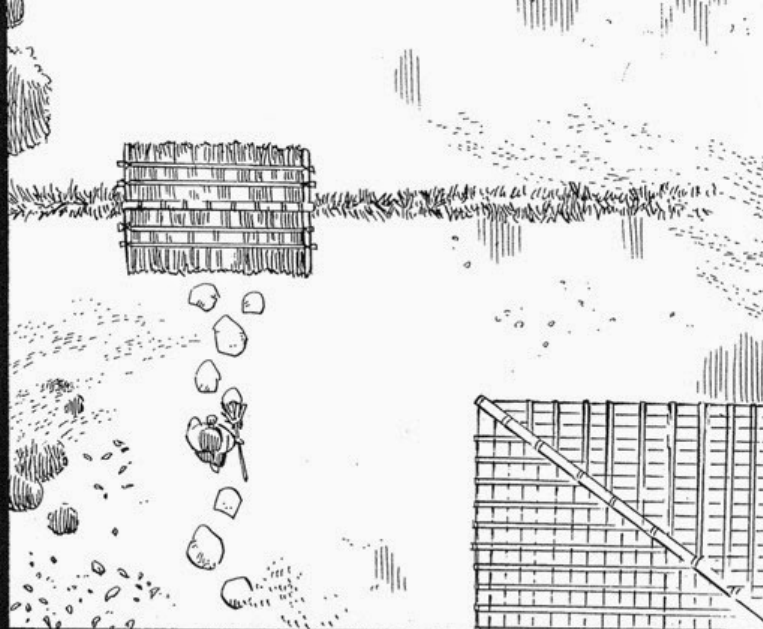
多希が死んだと
いうのに
口うるさいのが
息子に伝染
しよって

敵わんわい



食欲も出て
きたんですね、
よかった
粥のお代わりは
まだありますので…
けれど無理は
なりませんよ

わかっておる、
よく噛んで
食べれば
良いのだろうか？



はい：
おかげさまで
すっかり熱も
下がりました…
今朝は粥を…

そうか、それは
何よりだ
長らく緒方家に
仕えてくれた
大事な友でもある、

少しでも
長生きして
もらわんな

ふうう……

我が家は祖父の代より
緒方家の下男として
仕えてきた

この緒方道心様は
五年前に家督を
御子息に譲り御隠居され、
我ら親子を世話係りとして
屋敷の離れに住まわせて
くださった

しかし我が母は
昨年死去しそれ以来
父も体調を崩しがちである

大殿様もまた、
乱世が終わり
目まぐるしく変わる世に
随分と老け込んだ
ように思われる

しかし元来の教育
熱心さからか、今でも
指南書の推敲のお役目
などを受けては
充実された日々を
お過ごしになっている

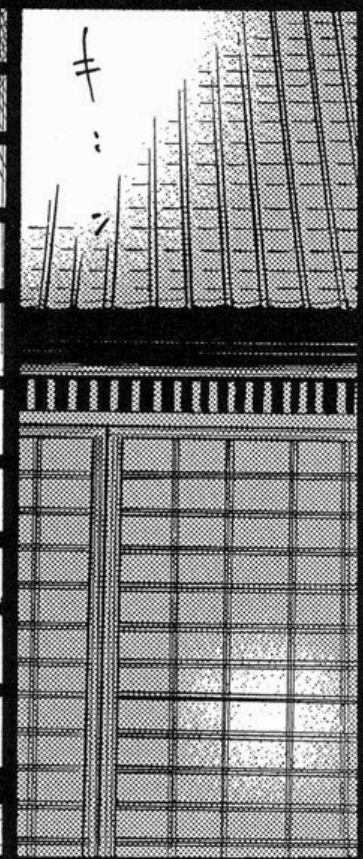
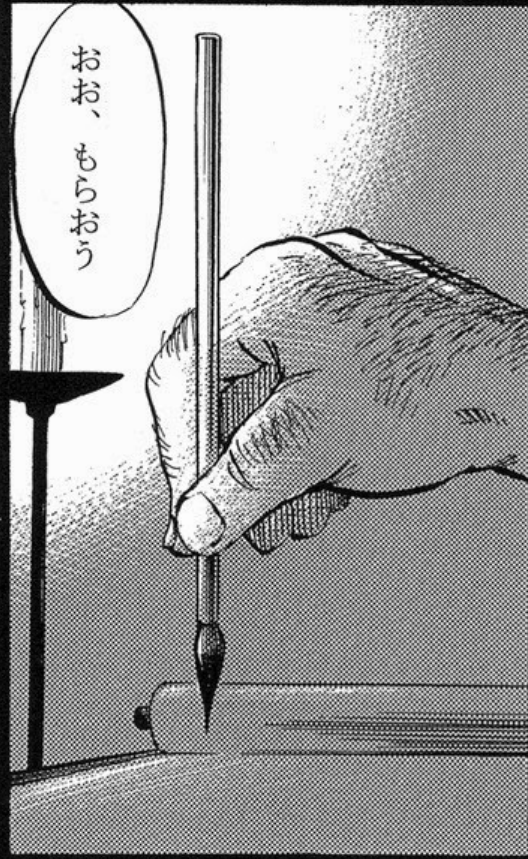


随分と
冬の風らしく
なってきたな...



大殿様、白湯など
いかがですか
だいぶ冷えて
きましたので...

おお、もらおう



あまり遅くまで
そのような薄着で…

なに、この冷えた
空気が気持ちよくてな…
つつい夜更かし
してしまう…

あなたは…

父を抱くことも
ありましたか

ス…

ん？どうした
虎介…

こ…虎介！

父に抱かれる
事の方が多かった



いえ、抱かれるというより
抱かせたと言ったほうが
良いですね！

父は別段男を好きでは
なかった…母を
深く愛していたので…

んう！よせ！

虎介！

キキッ

サッ



つまらない演技を
しないでください

貴方はこうして
後ろから突かれるのが
好きだった

う！

ああ！

大殿…傑作ですね
もうこんなにして…

父に抱いてもらう事が
できなくなつて
何度自分でお慰めを？

うああ！

私に抱かれたくて
毎晩こうして
いたのですか？

はあっああっ！

虎介えっ

自ら女のように
腰を振つては
何度も強請り
女のように果てるんだ

グッ

ビッ

ビッ

びん

父が亡くなるまでは
と思っていました
こんな事なら
さっさと貴方を
犯してしまえば
良かった

貴方も思い描き
羨望していたの
でしょう？
私に犯され
汚されることを

だから貴方は
見せつけたんだ
私に

あられもなく
父と交わる姿を

なんていやらしい人だ
父に抱かれながら
その息子に抱かれる
妄想をしていたなんて

御家を守り
聡明で面倒見の良い
大殿を演じながら
四六時中女のように
穴を疼かせて
いたんですね



大殿…ようやく
貴方の本当の姿を
見れました、

思っていた通りの
とんでもない
色狂いの畜生だ

いっしょ

んっ…んふう

アッ

アッ

フウ…フツ

アッ…アッ



ご自分で乗って
動いてください
よく父にも
していたように、

げなん
下男の麻羅で
よがり狂うんです

アアゝ！ 虎介え！！

ぬうう！オアアー！
虎介ツ：

た

11
47

儂の中に
そちのモノがあ！

ハアツ……アア！

善い：オオツ！
なんと固くて遅い：

7

11

オ
オ
ア
ウ

!-۱۵۲۵۲۸

腹の奥までツンウ
オオオ!!

グッ

71

34

エリ





貴方にはこう使うのが
お似合いのようですね

又オアアアア！！

ヒ
イ
ツ
:
ヒ
ツ

どこまで
入りますかね？

おおツ……おああツ

アア……





女のように誘って
見せてください
そう、ご自分で扱いて…

あ、あ、あ

ハッ
アッ

緒方家の大殿とも
あろうお方が
なんというお姿…

誰かに覗き見られては
噂はすぐに広まりますね…

ハッ
ハッ
ハッ

ハッ
ハッ
ハッ

けれど…ッ貴方には
そちらのほうか
都合がいいですかね？

ぐり

ハッ

オアア！

お

ズッ

ズッ

ハッ

毎夜毎夜こうして
犯してもらえるかも
しれません

父上に聞かれ
ますよ？
それとも聞いて
欲しいんですか？

あ、あ、あ

ギョウウウ

アッ！アア！

虎介え！

ハッ
ハッ
ハッ

あゝつあゝゝッ

大殿、貴方は
一生私の奴隷に
なるのです

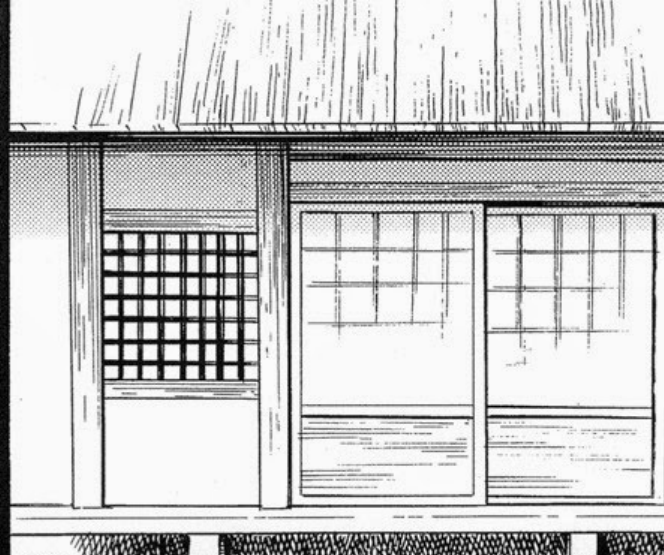
は…はい…

私の命じるままに
尻を差し出し
性具となるのです

私は虎介の
雌犬になると
言ってください

わ…私は…ッン
虎介の雌犬です…

一生…アアウ!!









おおッ!

アアア!



あの日から
待ちわびて
いた事だ

私もまた...



これが貴方の
望んでいたことだ

よいぞっ!



終

こんにちは密花と申します。いつもは二次でいろいろ描いてます。不勉強で間違いないなどあるかもしれませんが、時代物挑戦できて楽しかったですねー。

明治時代までは日本は性に大らかだったとかよく言いますが、生まれによっては性癖どころか性格や振る舞いまで制限されて自分を押し殺さなくてはならなかったわけですよー、それはそれで大変ですよー。なので大殿にとって虎介は救いの神みたいなもんだなーと、ふと思いました。ではでは。

2014.11.4

密花

奥書

タイトル: 大殿

発行日: 2014.11.30

発行者: 密花 (THE やつぱ)

HP: m-ty2k.tumblr.com

印刷協力

(株)日光企画さま

No reproduction or republication without written permission.
許可のない転載、再発行を禁止します。



Original gay Manga written by THE YATTUKE ★

